

康煥草

八七六
外國居取

和書門		
一八六〇一	函	類
一七三	架	
一〇	冊	

内閣文庫		
一八六〇一	函	和書
一〇	架	
二〇二	冊	

内閣文庫	
番號	和 18601
冊數	10 (4)
函號	202 177



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

藤垣草一巻才六目録

右取

減一

宮二

教三

樓付堂四

家五

屋六

棟七

庵八

軒九

窓十

隙十一

扉十二

戸十三

門十四

簾十五

床十六

沸座十七

寝所十八



蔵サ

障子サ一

格子サ二

壁北三

垣サ四

堂北五

寺サ六

御サ七

村サ八

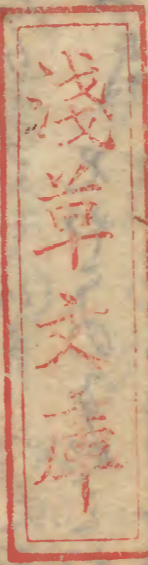
園サ九

庭サ

縁サ一

Handwritten notes and a small drawing of a bird or insect.

藤垣草六



書き時多し多ハありまもやことよあり 明日書

大和あまののあふ きまやことり用

あけはのあふえ

と江 志賀

新嘉

新嘉や僅る樂よ新嘉すまののとより新

宮 二 付る新皇者

いそえのしーとらえのりーのりまの

れー 母宮又 孝宮也

つーとら 〇月も日もあるた下連せひさよありひむられ山の

のふとら 〇ふとら 〇ふとら 〇ふとら

ふとら 〇ふとら 〇ふとら 〇ふとら

本のもめ 是ハ初瀬よありけり 初瀬ハ海よりくみやあふ人の

人ー君ーちーのうら 大ー 禁中 丸 いろくれー 指

られものあふあふー けくさー せー せー せー

乃やゆらえろー 伊勢神 社 一色しー せと

豊浦 〇門のけくえととよらの官よつふ

とらとらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

大和万代 〇とらとてれ 〇とらとてれ

〇とらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

〇とらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

〇とらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

〇とらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

〇とらとてれ 〇とらとてれ 〇とらとてれ

やましく日は久く揚を志の光地まき
とくのたすきさくくしり高五十鈴海

ふもぢらののー や戸と但未定月
とたりめて

那波ー 栲別あがをらめりりのわく舟
れ肉をからめりりり里よ同

長柄ー 栲別
野ー 山城尺
やんの

うもろ菊ーくあく月赫を
しあろ琴竹の松風葉のさ

はくまのー 山城扶草長月位
ふまへ神宮へ

乃ー やまとのくもらーみ中牛の鏡の月
さあふくすそのまのまのよの月

山科ー 山城
不替ー

山城海ちうと漱をとも清きま鳴と
しと兼むかりしー里尺やりーら

秋津ー やまとこらーの秋
つのも尺やん律さうし

まののー つの国しーしあらし
の宮り清食向とりり

と江ー 大津宮や霞尺
や本とりり

原ー や戸とあめ乃と
まの海ーめと

まののまのれー 栲及神さ
ひてよ

ひのりる浦れ松風林
代よりををらぬ月

中ー 山志ろ弁と
大津ー 尺
あふ

激ー 海内まーうも
あけの志まめとやとをあうせん

あすりれー 八雲流流
とれとわめ

部よ同
部よ同
井乃ー 志まつー此香推へ全じの社と
ふあうも不入くとまへ八雲流

葛城
神武宮

片越字ー 同安寧
同安寧

極曲峽ー 同蘇徳
極上池

心ー 同孝昭
室秋津鴻ー 同孝安

室田廬戸ー 同孝靈
極境

原ー 同孝元
志日卒河ー 同用化

磯城瑞籬ー 同崇神
志向

珠城ー 同岳仁
志向日代ー 同系約

磯香志宮穂ー 勢
志江歌

穴戸志浦ー 仲亥推
古大和 磐余稚櫻ー 大和津
切履中

極鴻志明ー 同森
同森

那津志津ー 栲列
丹江紫籬ー 河内
反正

志向日志ー 大和先恭
大和先恭

石上宮穂ー 同安康
泊瀬朝倉ー 同雄畏

磐余甕粟ー 同
同

石上香八釣ー 同歌
同歌

石上廣志ー 同仁
同仁
泊瀬列珠ー

日吉烈 碧余玉抱日继折 勺金指日安采 檜隈廬八野

一 宣化 磯城鴻金判日欽明又只とさ 碧余詮諺田日

碧余池邊列柳日用明 倉橋日崇峻 小壘田日推

天智天皇時 思中新子也 難波長柄豊崎孝徳 大津上津

遷天智 孝謙 清原文武 藤原文武元明 平津元明自

聖武 孝謙 清原大和 長思桓本遷 司穂大和 入野大和

大和 長思桓本遷 司穂大和 入野大和 粟津野

天智天皇の 卷向やまといふる元梢

○ 敬 三 後方るの呈りやと 後りりりありき

きりまら殿 後方るの呈りやと 後りりりありき

一 系院やと万壽さる あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

あり 中禁中 あり 中禁中 あり 中禁中

志家入の家さ死く

一 説家の名と云く、万よされ草の中よをけんといふハ、祿の、推す、家

二 兼四葉曰る也、其の草三持、神の名も

家れなりや、又、志家、入、を、又、志

志一、れ、や、し、と、ハ、せ、と、い、ふ、し、事、え、ろ、と、せ、し、回、五、葉、也、と、い、う、に、於、て、あ、る、也、又、志、家、の、口、よ、り、が、り、と、い、ふ

うらあくる

のぬるー 古つれ

りきう色 いさぐ

び あや、い、る、れ、う、さ、を、わ、ら、と、そ、の、や、う、と、い、ひ、さ、ら、う、と、又、い、尺、う、こ、う、と、共、り、只、お、き、一、り、あ、て、く、む、と、い、ふ、回、も、也

あ、の、け、う、な、い、こ 〇、あ、の、の、こ、い、ま、山、よ、す、む、た、こ、い、つ、く、る、志、う、と、い、の、つ、の、る、こ、け、り、な、い、と、て、ま、ら、と、あ、て、志、く、也、ま、ら、く、い、あ、い、ま、ら、い、つ、な、い、と、い、ふ、也

い、二、ヶ、條、の、の、具、の、う、ら、あ、い、よ、注、也、 玉、小、あり

な、の、の、わ、さ、る あ、の、の、り、の、家、と、い、や、た、し、う、あ、い、ま、ら、り、の、家、や、も、何、畧、と、て、さ、く

け、り、一、ふ、は、ら、う、 音、の、い、ま、の、い、ま、の、い、ま、の、い、ま

と、ま、の、む、く、の、も、と、あ、の、家、り、え、て、ま、い、じ、也、

山家 山、さ、い、し、や 一、乃、れ、せ 家、用、さ、れ、く、あ、う、い、 も、あ、ら、あ、い、ま、ら、り

な、の、ひ、う、え あ、建、海、あ、る、音、れ、板、戸、あ、建、ま、ら、う

う、い、ち、の、う、ら、う、 家、居、屋、ら、う、と、い、う、り、う、

の、屋、ら、う、 あ、さ、ち、り、の、や、と あ、り、の、い、ま、の、 あ、て、く、む、

あ、て、く、共、さ、く、せ、ハ、い、り、り、な、と、あ、る、と、い、ふ、こ、あ、ま、せ、ら、り、共、り、人、う、さ、と、あ、い、く、こ、い、ら、せ、や、只、日、む、く、袖、中、の、説、う、も、山、う、つ、の、い、や、一、え、や、の、め、り、り、よ、う、さ、と、い、て、こ、う、く、こ、い、ま、ら、い、ら、り、わ、ら、う、い、ん、ま、し、う、れ、う、さ、と、あ、め、ら、う、と、い、ふ、と、い、ふ、也、

屋、と、も、勢、一、れ、ま、ま、

う、と、な、れ、一、う、い、あ、 是、家、う、り、と、い、ま、を、又、勢、と、い、う、り、の、冬、ま、そ、と、あ、祿、こ、う、り、国

一 あ、い、ふ、あ、 一、乃、い、 い、わ、い、と、と、い、ま、あ、

の、た、り、ま、ら、え、り、く、よ、ま、え、ま、の、風、そ、あ、ひ、け、い、 い、い、物、の、ま、ら、ま、あ、ら、り、の、こ、い、む、ら、ち、し、河 扱、の、い、さ、が、 わ、い

を、ん、ま、し、ま、り、ち、や、う、と、あ、建、ら、う ま、い、ん、を、我、家、也、帳、を、い、れ、ら、り、く、僧

る樂の たぢあふれ こ家とさうめり しうや とくろけぬる家

あふ 古家 ぬかーやしのほろ戸ーと秋雨 や りくろ 荒 風

いねまーとめくろのこもろん や とりあふも

くろれまーくろれ 又りくろ 部波人あー火た

くやのまーまれく 万〇 やとれあけろ 所 井のすま

りあれくろ家 万〇 万〇 や こまぬあれくろ家 あひり

ほきてー居する志 万 玉志けろー あ くやりなる

一 源 長 ちの ち さ り 家 家の方 あ 寝 孫 寝 孫

〇屋 六 い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

日本記死

人ま不也

あふ い やー 家 家 も ち や 又 仙 洞 の すま ろ ろ ん と も や や 又 ハ

○朔
露

や又ふあやの家のついでにふたともなくしてはけうは孫
こよりうりま板をすねうことをひこひてしあうをうまや
ひやう下ふたなくもつきのひはくありとつきんこもりさうひやと八麻火
をとけつと身縮言や又ふうひやう下と八の中よりうひむらよおやのうら
よつくりもるれをつくまてうれやふたるとあまこころくろれよてことを
うまきとうひやとつうまたるの下み尺そをりたはら休たさるこして
おもつなくう一定におやするてさうあるまありおかくハ孫すこよたろれ
ておをを他とて奥義ふりひやと八の中は奥とらとてまらるや海ゆハ
江たよまもとりよ抽とてさうてくらとあきしもうらよさくのここ不
と海ととととりのをふたれとあうさおつうく道のあつさおととらこま
おとへぬれさうさのおしろきさうをれんろれうをふらうをやつくりた
かひて三つりそと人をすんこまもまたもせ又くひ抽をうらまきさてけうを
さうひつけられればけやをうひやとふやとふあ一つけとふ抽をひさつ
くろつうならんしとゆりありまともこさうふ流ささとさう又ふ田や
ふ麻とらとてしとて人のりこのおちまよくれのくさ物ととりあつめや
けハさうを伊とひて志りのよりこぬここの火のりよと翌朔までのこさて
うすこれしとくふみおゆを朝うすことさうをさうしますしとら又六百
のさ合判ふとの朝うすこれさひいて是求のさの心ハ山田の庵に海とと
まねけ平の位やと離者して山中お令君之呂蛙のこまきしてお君のなくさ
をちかすうらうりやめ合拂元蚊あハ合を精燈麻や然
ふ於千蚊麻志はる一句の代ひて燈炎者こあ一変矣うい

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

あつとるうけ
あつとるうけ

うごーまじら乃うごーあまのふせーのそてのぢい

ーとまー形も海ー形椽乃ー形三つくらさの

畏のー形いしとあれうめー形拙とそひりくくめー形

○小萱わくくめやこの竹控うーううぬハたひひ成りう是志のーる

くくもとうう物互は親隆の言く松ふ若ちひされやうく元根一あ

けくばー ○夕附日さむやゆへふはくくやのくこちとうー又三うそ

とーみく地形のためーろさーい あししの八重あえこや

雲の八重あえ椽れりやー中とらまりくひーり

たもつごのー黒木ーあめー是ハ黒木池源成黒もむ

くはくくのつが まじれや ○みくく山まきこのやたてくむむたきを

うごーのつがくくえとられまふあの一ー志とや難

○棟七

○あれもくくむねとくもらあ育れいりう連さうてたのう人まけー

○あれもくくむねたのうさう山あたらちけりみち系と床おそまけ

○庵 ハらちりや

しつう葉りや 志けく志しりいほり草のー草

のりやるのーりや山うけのー目みゆれー目松

のトー嵐れーうまかのー是とあう見付し是小あ候一ハ刈

くりやの巻しいのま植の伊海一とうりいの巻く又

接れうまかみくさうまあえあたらかつとや

うけいかれ救しう田ー一あま 孫やうのー

お糸乃日らちまの ちりの日 ちまの日

あぐれ日 荒の日 ちの日 ちの日 ちの日

日恒例もい ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

し日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

軒九

物志九 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

ちの日 ちの日 ちの日 ちの日 ちの日

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

とせむらうて戸をあきくまの海にうらりたるのむらり指

あ飯の石門うづものすすつ 扱ときんん一は一石一目 養老相

の石一北の石のうとと 小金一あ下れの石一とととは あきあきと

え一夢のち糸 水となるののまととり とれうたをりとり よもきの一しひく

られ一松の一扱れ一松の戸 十ふの一どりは

の妻もやとちも 葺菌社百首後廢 西の湯一 よもり一あま あり南社神元

はく一さおきひら一ちうる 〇世一あきしひりふ人もい うりりももうりのふきとあき

き一とらあやび一ろうあらり む志後の

一やちたの一しつの一松たてなめて老せぬ

一しれ一わら一さまの一いちとなせ一まつた

てら一あしらり龍 山城和易丸山ひめ布きしを

くくあらり色 ららの智仙人遊ひあり氣 む

くくあらり色 てへくらのあきとさうり やいひ

むむくくの一よもまはら一あらりむくむととととあ

りもの一せぬの一なととと妹を夫や一出大湯

一むくくの一とあらりけら家のと一い

をり一あきたり秘て草はらり 万あやび一ろり

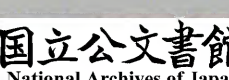
せら一あきたり秘て草はらり 〇あきしひりあや志を

り家の一とととと 〇あきしひりあや志を

〇簾 十五 〇あきしひりあや志を

あきたり 〇あきしひりあや志を

伊はらり 〇あきしひりあや志を



らす こそすべし 一れ一あ一玉一なるのさびき

あはれをいふ一のさびき 請書の手紙に於て四月一日 新さあすたれとくけく

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

あはれ一 あはれ目もさし一ちりさすたす 一のさびき

○浄庭 十七

おま ○おゆのれきりのりおまのぬきてひらみまのぬきけさせ
 ひらおまぬとらむをかくしぬとふや又業種つらやりのす
 とやそれらやそれとそ人のまふ貴族の夜とふぬきとて○かゝるやむの
 れまこれよそひらこのう人まても夜めくまつとふあゆと人のまふまひら
 まひらむのれきりへんきちやうのふりと返きこす

○授服 十八 田中

あ せとふ敷敷とふ
 やハヤ敷院 ぬ 祓衣又ま
 とまらや よ よとこふ
 よとの

祓や 祓やれうと火 祓屋の板はねやのみ
 まぬ まぬもろなら 祓やれりんあま

○柱 十九

ま 神效又諸又ふ
 きつれと ち このり
 りや又物
 一 つさるの
 のんか
 のんか 一 の
 一人廻
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と

一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と

一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と 一 の
 柱と
 柱と

○花 廿

か ○まうか
 を千枝
 たるこ
 ころひ
 下も
 ら ○あ
 めい
 めい
 の
 花
 と
 こ
 と

○障子 廿一

の障子 廿一

志しと寝

寝入麻非者多と八云此は俄方内府西教を為す事よ依伯蓮子
麻呂雅大齋連細田村入麻臣是日ぬ下條の澄庭八齋藤子後教外

及とわはは河浜者や入麻の
名と語注とありたりや

志と寝のうと
そと代ふらん
と

とわ

通入藤子や紫震教の後七廻中居藤子の名と

○格子 廿二

○格子のうと寝とふとつたててちひとくまよ
とつとつはそは後系格や中上格子とふ語とてうあは

志とと

山
ししとと

志と寝
志と寝
志と寝

志と寝

○壁 廿三

入よむふなむりぬととむとふなとよめ
とつとつはそは後系格や中上格子とふ語とてうあは

とつとつはそは後系格や中上格子とふ語とてうあは

とつとつはそは後系格や中上格子とふ語とてうあは

とつとつはそは後系格や中上格子とふ語とてうあは

○垣 廿四 付籍つらち

神垣 宮一井一む一た志し一紫一に紫一 源氏 大

一志し一の袖一袖一つま一松一しものた一

一志し一の袖一袖一つま一松一しものた一

一の行一をれもや一あ一

一の行一をれもや一あ一

一の行一をれもや一あ一

うらふりのさきつづるを
又うたはるるさきとも
うらふるね花の多し花乃ハき

一花のさつ一もくの一花むくくれ一よもえ

のハきれ一もくさ一志の一や一ハき一 おま

うて一ウ一電一 ち 中一と一く一も一も一

一 神也 あけのむ一ぬまの水一むとく一ウ一

糸うとらく ○おおくく庭草とくせ一程よ
いりのまきねとうと産まおたり 一わのうし

あるの一糸若の一糸りこふ一糸乃ねりうく

ちたぐ園此あう一神のあう一めとあうの一

意一 伊勢又云
意と ちの一ひめ一 山二のうま
海神よりあり あと一ウ一 日

記云代主神海中よハ登登業終とつ ひとろえ 神終 あく一

あく一 あしうまの
く花むにあり 山の志一があう馬草一と

志とろふ生くまをひわく松一より行とり

夫おつをあ一ひ一室一室一あやひ一

かりひ一後一草の後一志との籬おくれ乃一

竹丸籬 よもすのまうき あげ一 一此らち

むの たき の一 お敏がやとれとのとむと源氏一あり二
流を一洗洗殿一洗洗と野とやと

まろ乃一 只さられ
押と 一 一く あえ あさ 一 後

せうま すい 一 すい
源氏 板一 も
源氏 くの ま 一 蜘蛛の
と

すうさうらむと家のありなうきとらえん
とてくものすうさうとく拾遺のまや 一 くつれ
そ

まつりり此大とてたう人 ついちのうと又垣のす あり ついでり花むらりあり

あつ人 あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

○堂 サ五

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

あつ あつふありあり あり あつふありあり

の道こゝろきくろくしん

れしち山ちれー花ちれー子ー 是をひらけ里よのこ

くひー ひ海善の中 三山をれーと山ー花ちる里 もあつとろのまよ

あー 海良也 山ちやのびひのーむ 海良也

とーあ海れをむー 又あまのまじさとの 人ゆふすー

とーうれをー魚万うら家のー橋れ花ちるーお

とひてとあふな跡うらまをむうし志の

あーの草おやひれ 恋草よやつれもあーむか

あーのりりしん入の里 山城八 念ー 同上○日くらんまきの

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

あひく泉ー 丹波ま川のりて布さ 生野ー またひらたてくまの田の浦

山里共 三河巻の 常夏一 あゆとらう 中浦一 ちのり 白飯た

小倉一 山城表らう 小倉山麓一 山城麻月 小登一 同上

吉原一 同初時ぬね 小山一 あふえ 寺多一 あふえ

小田一 ひつ中 毘田一 あふえ若 雄琴一 同右

毘田一 昔代水 雄琴一 み松風物さ下

乃一 肥せんう 乃一 未勅もひさ 撞一 山城月

乃一 あゆとらう 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

乃一 あつこ 乃一 あつこ 乃一 あつこ

鳴海一 尾羽部ありき

名取一 奥羽

梅津一 山城八

釜河布一 尾羽流

同上内流私ふあ 村雲一 丹後守

むりあの一 万〇むせーむり

このことよとふた

らきここの山の山や 宇治一 山志ろさじ

うちわの一 大和夜みれ

うりこのさ

とよあくる 鶯一 大和戎ふ

升年一 山城山吹

野上ー みのくら

聖中

一 播列らあり 大原一 山城大君成月いーりー

里勝一 同上流あり

ちこつあ

一 多法あり目 大原一 山城大君成月いーりー

と江螢螢やあるあ年をうーらうひこ

お

明れ月 大くふ乃一 大和ふのさとたのりーく

倉垣一 依中〇くうきこのさとあ

黒

一 葉原一 丹波宗義は

草薙一 へびきー成ぬまうりの

黒

津一 江志 粟中一 へびきー成ぬまうりの

山科一 山志ろく

山田一 伊勢

一 矢部一 日〇吉へく今とくく

山梨一 うい梨

葛原一 ちろ中

とり やまゆくのー ちろ中

山梨一 ちろ中

葛原一 ちろ中

不知のらききも 是田一 大和つひあせれ

松風一 尾張〇松りせのさ

とよむれのゆま

つらえちとせうさ 是原一 ああそ〇あう

松

松

むくれ一 江志 源原一 山城うつち

山梨一 尾張〇松りせのさ

とよむれのゆま

さちりー 伏見一 日志

山梨一 尾張〇松りせのさ

とよむれのゆま

つ原の床 伏見一 日志

山梨一 尾張〇松りせのさ

とよむれのゆま

らお松尾部あさちりー 宮原麻老り

藤原一 大和〇なりーの

ちり

まら系結て麻又 富土一 ちろ中

藤井一 尾張

二見一 ちり

布苗同おすくまき 是れりーろあへ色ワ
ぬ不をさしり又仙人の抱

木葉越中の草そむる木のさの里のり 衣之海〇さうへ
これみくゆく

秋山山城月 嵐山同上麻月 藤枝の巻

秋津大和 波間信れ 木橋山城ふあまきとさうりより

夜半同上八 秋篠大和 あさ

うの陰列ハ 飛同おわりせこり 何伎越前〇あち山君けのおよ成り

空憂丹波〇まうり 何伎ハめ文ーのさとおみうれ 初日を江あうはさ

墓尺の〇あえやつ 日日うけ

あふりあふ尺なる 盧つこの 葦ひ 小ひ 坂ひ 祥馬上野

櫻井山城 佐良志

義豆野山城〇 者三

三物同お 又付ま

涉同お 伏伏

又乃未 白

月未

松未

白

白

白

山城系 檜やー きのくお 志賀古ー 志江又志賀山甲せふ又志

信の 信の 信の 信の 信の 信の 信の 信の 信の 信の

海乃ー 人あぬ島 伝太ー 和泉町ぬふふこきやー 日蓮ー

お糸ー ちの勢れ名 徳越ー 徳神ー 徳神ー

芥生ー 山城○世とろむく内かてをらち 勢多ー 志江揚れ

園やー 武列やとや 麦原ー 大和○おやき海のまれろこよ

泡吉ー 移別屯時 多志孝松 麦原伏見ー 月太○まうりや依見の

の 丹後○白菊のつらふのむらうすむ づへ成てく

村 廿八 日るお 丹後佐領中や○りあまら

ささみのむく 丹後佐領中や○りあまら

のー 徳中 春るのー 丹後佐領中や○りあまら

のー 日太 子枝ー 志江藤甲あーてく

のー 山城系 足徳ー 丹後宗統臣 志た乃ー 尺

のー 同上 ちるれくー 日太五月雨 田中ー 日太

のー 山城系 長良ー 日太 志た乃ー 尺

のー 八重 長良ー 日太 志た乃ー 尺

のー 日太 志た乃ー 尺

のー 日太 志た乃ー 尺

のー 日太 志た乃ー 尺

山城系

廿四

流城丸六

親よつろ掃 あめ尺 やまらうのー さたへ 延来ー れと 八室ー いつ中

あめ尺掃 あめ尺掃 のー あめ尺掃 延来ー あめ尺掃 伏

山志ろふめ坊 山志ろふめ坊 へのもろくくひ戸をわくつろりくさゆふまされむらん

三海 三海 源江井ー 源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

あつこのむら あつこのむら 三海源江井ー 三海源江井 雲乃ー 雲乃 のー の 五月のあつこのむら

力見禁中や花六百お百も百お百の百一百

登万〇よその花万〇よそのの万〇よその花万〇よそのの万〇よその花万〇よその

後後ははううおおららりり水水 花花水水ののりりややううののんんわわららりり茶茶

おおややのの花花のの一一りりををむむくくううままりり昔昔れれうう也也

乃乃けけららままのの山山花花のの一一りりももおおのの一一

ままらららら石石ままくく 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

いいここままれれささくく一一 くれくれ行行乃乃一一れれ中中とと花花がが

せんせんさいさい よきれつががよよきき花花ううららんん後後也也

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

そのその力力ののささののんんののささののんん後後也也

藤藤垣垣草草一一巻巻第第六六巻巻

國國一一 郡郡二二 鄙鄙三三 夷夷四四 唐唐五五 世界世界六六

世世一一 冥冥途途八八 抱抱樂樂九九 須須弥弥十十 於於宮宮十一十一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

〇環〇環 〇秋はにのの一一のの花花のの一一

とる也 其方東海也而羅兼抄品ゆたりたり国くとあ

あま日よむふ 此国の名也 此国の名也

志下 生国のくめ 一 志下 或ハ志下ハ大和国の内此名

瑞鏡宮欽命天皇鏡城海金判のまより 此名も大和といつるは日

大和を只うさねさる河なる人し 此名も大和といつるは日

日中 又あえつ志下とも 秋津 又あえつ志下とも

志下 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

あまの 又あえつ志下とも 志下 又あえつ志下とも

五月壬辰朔從葦小敷船一して到火国在是日没之我冥不知著者遙視火光天皇使遣者一曰直指火国火柱之形得著降天皇問其火光者白のむはく何謂也之と国人對曰是む代の然事村之亦為そ火是此人の火そや松よ不得主と意世人此火故各も必曰火必奪今世も肥亦肥後云云也と云く

のひさしなり

そむる後也日本記云備武子乙皇巡狩東夷之必の時新よ合協井と共泉淨澄と既ありはは時内夜れ油番

泉宿漬袖之美ふらりて日交る考陳と云又考陸風云記云け国不備江海は来れ路一つふつてくつ小日海と云く

すさりの

〇分たるとのひれくふらりよまらるるのくまこてくくのくふのさうひよかて一ありぬ一のたりぬ

あまくりいゆえとくりり荒多とひものからまとうてふらりこのひのくふとんふよやりふりあう香とよまこつてくもやうちよまらるるれをふとい美候多一彼のの砂を打考と作てけりそ又故くよあまゆとままとして二の山あり至すふらり胎金有那の番跡やいあ山の君も若は東海道之驛治くろけあしひお扱毛の用と云ありい道ハ觸穢忌と云とらるるをい明神つてとせ給けれんおまらるるのくまこつてや成云ひ一富士山も海中より濡出し一はよほてうり建らるる法の天女ありと云とまひあういふくま白波おらと云く此くま山と云りけれん中と云や蓬葉と云説よ符合す傍者也

伊豆の國 伊豆の國 たりんがら 志摩

と成つあふえとよあつと 伊豆の國 新六代 志不孝の馬のり

上伊豆 周防 万 あ孫うの國 新六代 志不孝の馬のり

かたり國 伊勢 国 万 あめはちなりとてり國 万

山城 大和 河内 和泉 播磨 伊賀 伊勢 志摩

尾張 参河 美江 駿河 伊豆 甲斐 相模 武蔵

安房 上総 下総 常陸 土江 美濃 飛騨 信濃

上野 下野 陸奥 出羽 石見 越前 加賀 越後

越中 越後 佐渡 丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆

出雲 石見 隠岐 播磨 美作 備前 備中 備後

ありとこしー うりのうらうら国にありとこしと世に人のあつたまよもくもくしよあ

ひやとこしー 防未際れえもきぬりのとこよとこしりされせまそつとよ

しやとこしー 世を経やるちか 子世少や子世 あせよハ

りよああれれ只ま就 帝の子人 中めしつとたて てく係民を憐 なる世

やうとゆふくとし 世とつれ 一のりさびくー 世とつれ 山ー後

のーあえ乃ーか死ーのびくお ちのりか死ー

あつめあえー人のー 若げれんめまよ 一のりさびくー 世の残らるく世

まのまじく係民 世よあー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あつめあえー人のー あれとあ家ー 一のりさびくー 世とつれ

あり但来交れ垣のふりよはすあ不主説
一ノりゑ ちり垣 ひめ垣 やしれく海
是は古抄に
あり

藻垣草一巻第七終

藻垣草一巻第八目録

草部

- | | | | | | |
|------|--------|------|------|-------|--------|
| 草一 | 若菜二 | 莖菜三 | 芥四 | 蕨五 | 大葉六 |
| 藤七 | 款冬八 | 躑躅九 | 杜若十 | 卯花十一 | 葵十二 |
| 牡丹十三 | 菖蒲十四 | 瞿麦十五 | 百合十六 | 荷十七 | 夕白十八 |
| 瓜十九 | 阿知佐井二十 | 疾北一 | 疾廿二 | 女房花廿三 | |
| 薄廿四 | 露草廿五 | 蘭北六 | 川荳廿七 | 桔梗廿八 | 龍膽廿九 |
| 紫莞三十 | 橙卅一 | 草卅二 | 葛卅三 | 葛卅四 | 仙翁花又卅四 |
| 蕩卅五 | 茅卅六 | 蓬卅七 | 芭蕉卅八 | 蔴卅九 | 荊四十 |
| 忌草四十 | 忍草四十 | 忌四十二 | 紅四十四 | 藍四十五 | 若四十六 |

藻垣草八

芝 七十四
葦 四十
濱木綿 四十九
菱 五十
蓍 五十一

萍 五十
蘼 五十
蓴 五十四
菱 五十五
蓼 五十六
大根 五十

羊 五十
大豆 五十
大角豆 六十一
小角豆 六十一
粟 六十二

菽 六十
麦 六十四
麻 六十五
苧麻 六十
木賊 七十
白木 八十

羊蹄 六十
駝駝 七十
靱 七十一
射干 七十
太子草 七十三

白慈草 七十四
白頭草 七十五
水慈 七十
蒹草 七十

法砂 七十
鏡草 七十
折菱草 八十
瓜許草 八十二

苦葦 八十
野老 八十
下野 八十
山苴 八十
山女 八十
玄針 八十

母子草 八十九
小く美 九十
馬束花 九十一
木芙蓉 九十二

竹 九十三
草 九十四
和名わく 九十五

藤樹草 毒第ハ

○草 一
い内まかしうり草よあきりるりねがーちの毒共
先文字とよるりあきりるりあきりるりよはむり
あよあきりるり又水若とりふととく但あきりるり
あよは偽あり古との三りの大りのの秘傳とを

かき子草
新やおわり
草よもりり
わりり
ふおりりり
まー

ふおー
新やおわり
草よもりり
わりり
ふおりりり
まー

夏一秋一冬一
冬乃わりり
うりり
わりり
んー

つれりり
あきりるり
わりり
ふおりりり
まー

りりりり
萌や
あきりるり
わりり
ふおりりり
まー

あきりるり
あきりるり
わりり
ふおりりり
まー

あきりるり
あきりるり
わりり
ふおりりり
まー

あきりるり
あきりるり
わりり
ふおりりり
まー

ちんちんあさこ 八十月 やちりー 冬種入 濃露ー 八月中旬の子

れちんこの中し濃露草あをれと 生草 二葉れー 種や○をのふ

草 り草の花さくとまり又り 志きー 一ゆりの志

けん 万 ち草まー 万 霜乃

ーおひきひすー 霜乃 霜乃

トー 下草ハ何うてをこし 志たー 志たー

の志たー 志たー

うちー 志たー

夕ー 志たー

庭ー 志たー

よひく十割意押あまらひのてい此老古なり 始是真流あつひハまお對垂お對
ぬ日新意と妙能王志ややくあひまふつてく○志かまてをりりわういふれ
草かーみらくすくかくこあうよあやま教不見たとひ如湖園之依盈時ち
不え落時ハ王はくよみゆらあし教の諭ま右の離ををぬ日新意と足付すく
あうして志教大是お對を押与古昔とねより少又難おす以消息をくけお
業之方よをこあうくまくなくとあうくおがまとありけおーハみらひす
くなくこあうを教おがまとつひたり大老因る也とぬ日こあう教とんあう
ハ意のま志かまつわうれ業をまけひおかくまを教まくなとつあへ
まふハあし志かまつ伊その業をえつ時ハ足しとまハまれくれぬれ
つる時ハわつのはと勝とまハる連もるまをーをみくくともりあまし志
かひて足おとつひきさむるまをすくみおれん足ぬるれやうくく無名
おまけままひりまもまつて伊それ業をこひーまんまんとて志か足
ちぬれはうまのろまへくまー海ひぬれん出くろを足れるんまれるり
とらあううう足れその志かれみらひろく一日お一度うけりすれまや
時う月のお伊おまをこうひてまをれともつおよみらひる事あてた
ゆれしとる此志の心をうたの志かハみらてハひーありておまくひ
てまて日と日ありてみみらぬれ十日まサ日色ありてひれくこのま
さうかろやうよまれらるるこれおがまたらあやまりとらまけんれ海

と云先 一のりふみ葉 ○絲をうくはひられく宮のゆあたまをうくされり

くの袖中付ハ邪神有りてあまをさふたらんとはあまをさふりてくさ木のそ
もくともとて物とりありのありとち中巨りくくはあつるや

なぐむきー まろつたつ乃むひりく又をさくも
あり又松とともを説きあり あつる乃ー

まひーとばーのー ぬく字あり
もま回るや りよりー 源氏

つひーつれなーれー のく字あり
ま回るや あとあしー

目上七きまー まむろのまーしーの
絲ありくまこもり りんさてー 生發

とまゆくお あまもあへよたあつ
れもろくさ 卯月乃ー やあまなるまろりふ
一葉ー ぬひともよくさ
せふ朝よ生て

夕小をむくまことあまを袖小よりわたくーよつを此儀の夕
よたひて袖よをむくと云後うやーんやーうさあやまのや 夕影

一 一葉葉に回葉や著陰葉とも
うひこと連ま回るや ちくまくりとれくまるとる

せーれそ 是りこれむく
めさあ ー ○ありつきのあはちー
ありて是とたか見せ

他巻の 是もくさくさあへす女房乃あま
はす ひのれー なれ時のりてあまの物や やまくわー

○のれぬのやまゆす葉のあれくく入ま こ浦よりあり
てやとあまりりれ月ば葉のら連まらうや 移りこー あまよこ葉の

つと云後あり又絲こ葉まらう こなげーこー 一あまし芳
く

なれものー ○た終るくするは物葉はれひよりりましくまーしー何
やまをたのめるはもの葉とん名あまこけりた終

あつるまの葉のたひたれんさくろりもあーしーいよとをれれたわ
やまくまろくくや葉あませよハ國草とりき終るまろりてあませよーあま

れるを難地まらるーろりくみひたれをのくこととくこのあまよまあーす
ま合をうれものくまこくやうくまの旁おひまうささうらくまれんま先と

らく又捨まよ○まろり花わうやまよのこありと足 山ー 志とくくさこ
志のねはま

はるまのくさまらまのあらまー此まのひらり 山ー 志とくくさこ
志のねはま

そろあ ひろあまろおをそろいり
やーひろろりりり ー乃香 まろりりり世後中
大芥とてあ

されー よのつねまひの本まこ他とこの中まこくとまろり
まろりハ捨わり又取まと足ろりまこくとまろり ち

智也や智えれ老とて性生くものへ
あまやとまことれい油中抄後く

ひく芥こーわりーあ

あくさとののうあま あぢくうれあめさの

せり水田乃あせよひくーあくのわりをあし

れーみひのまろくろり魚つと 魚

○蕨

五 伯夷之れ山中食すわひや尚王公の抱とて不食とら

まひわらむ さートー 一お 又まろの舟墨野と日野ぬ志
のすそ野ふむはりくま

ひへ 一はむ 湯氏とまらひの養まろくろり
まろの下まらひ折めつーひくくまろり

まろ 一はむ 湯氏とまらひの養まろくろり
まろの下まらひ折めつーひくくまろり

ひ 六 新 山祿草 〇やまひくまれまろ山ちのゆるさや家つと
あまきつさ志るまろし美名く飛玉りり

まろ 一はむ 湯氏とまらひの養まろくろり
まろの下まらひ折めつーひくくまろり

あり新水とりのまきーまろくろりまろあつろゆまろまろまろまろ
あまのの神と申れりいああまのまのまよれろくろりまろまろまろ

又とんまやろれまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
く又野まろまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

とろし畧式まろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
はとありまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

○土筆

筆 一はむ 湯氏とまらひの養まろくろり
まろの下まらひ折めつーひくくまろり

生ふろりまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ
つくくーまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

○藤

七 枝葉ともろまろまろ

つーろまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

まろまろまろまろまろまろまろまろまろまろまろ

危と括弧してもみくろ 時なぬー おれか ながとくえきあ

まふれゆらうおけりうまふのり 松よあけお

とよあり まふとむの海うまふ 雲ふりよふるとし

まかりゆるや 二季茶 其名や○とまふかりのむともとこやふ

あう ひら 茶 ○おろしのしりりてついでとらう

茶 ○そよやりあわりあふまをくれよ 夜乃れまひゆ

まよ まよ ちらふれひまよ木

あまこのーれれ ちあーのーのあうし

ひとく 海とらうさけくつも孫松

○秋冬 うまふ

やがあふ やる 野魚のー ○山道の

まーのーのーまよしう茶とらうあうー

かぬ物あうとま うまふ 多ふあくあう

ねさうけ草 其名や○あうあとのおまうけ草のあふ 鏡草 日夏

○おも教とらうひらとめーしうとまわをれらうものかうりあうー
目線すれまぬの抱くこととま物ありひーやまの国はうま
まあまあうねこを戸ちる井まのあまままびまうのうひたりまひの
ひさーあまきうさりーおちうひのねやまうつそまのちあうこま
うひらうまひさうまーせつとつーとも今よりまあぬまうあうま
あうま山あふたひさりおとこあふれまゆりひて不ぬいとまよひりす
みくろけさううねや此ままきひひてくみまかりあてまき又う
むそ年の林又ひあうま権草まおけま時ひれとまそま他のむありと
わすまひまうまー二のま名又わままのまままま玉あう

のてよまあうまうひすのまあまー ーのけま

うぐわさくわのふせ

○躑躅

九 浦濱よりあり又うぐわさのたさのうらむことあり

白竹 し

またうぐわさの山

のりー

志ー

石浦をくぐり

みまそと張所のまぬれりーいまのー思ー

まうるのーこー

○あさうめちひとくうめーあり

夕ー

ひめー花ー

又ひくー花もさる

うけたま

○山つ

わのままれまのゆーけけたをゆまふけりて家まゆーのりた
はまあつまよまゆーのうけおあせえれあまやせま又ひくーのそ
まのつゆ成も

ゆらとらや

志ー

ひまわり茶

美るく○花さひり
秋うとそわのあ日

わのままれまのゆーけけたをゆまふけりて家まゆーのりた
はまあつまよまゆーのうけおあせえれあまやせま又ひくーのそ
まのつゆ成も

わのままれまのゆーけけたをゆまふけりて家まゆーのりた
はまあつまよまゆーのうけおあせえれあまやせま又ひくーのそ
まのつゆ成も

○ついつ
たひたら

てつーきをゆりて

○杜若 十

うゑはゆら

又池沼にあり方よを秋津野ふよめ

つし

うゑはゆら

つがよまふともあま

○あは 十一

うのまのーうさり月

庭のー

ゆらとらや

家お 一くしし 四石 一もよかみとらあり 雪乃色

とらとむてきげぬ一夏草茶 茶 雪見茶 〇冬に雪降りて

草けふしうきよつぎく 〇冬に雪降りて 初見茶 〇冬に雪降りて

ふ連れハ茂むよもき たの山の里ふるれたりとら 雪乃色 〇冬に雪降りて

名茂む小多てしとら 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

孝よもつてくしとら 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

毛茂 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

玉 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

り 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇葵 十二 ひとひさみあき 〇何さえてや

あつひ草 又くあつひ 一そあきく 〇何さえてや

ス 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

り 〇何さえてや 雪乃色 〇冬に雪降りて

庭草 あきとつちあひ 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇牡丹 十三 雪乃色 〇冬に雪降りて

雪乃色 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

茶 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇冬に雪降りて 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇冬に雪降りて 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇冬に雪降りて 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇冬に雪降りて 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

〇冬に雪降りて 〇冬に雪降りて 雪乃色 〇冬に雪降りて

山一乃花

是一從也伊一のうへりよあり
物もあふすりよんしとさう

○葛蒲

十四

あやめ茶

只あやめとつりもさうはくうまの若とさうを後庭房に
終くお海あり但あやめとつりこと茶物にくんよあふ

八言
流也

あや引あやめち

五日

一のがれ 録のえ

あやめ茶一茶こ海とあめす

あやめとつりよんしとさう
すあめとつりよんしとさう

一のくさ

拾

神乃う海おねさうとさうめよ一草一

草おつりぬく同 くれぬ下より録あよ一

さうのさうり花乃一

○瞿麦

十五

さうのさうり花乃一
つこすさくさう海く

さうのさうり花乃一
さうのさうり花乃一

けり一乃花ちりう

さうのさうり花乃一
菊と花乃へちぬ福とへう建あやし

伊つら定

ともめうつあまひ乃おがひおすると

るう

女のさうりか
うくれより一

一のこの一う海て

庭れとさう夏

させゆひく花とさうめ乃いろ 山のつ乃うえ

かふさげおうれさてしして びうひ乃野る

の一日書ししとさ

さうのこの美名くさ
但中一しとさ

石竹

〇う 国小あ
里ううこと

つこさうすあつまのわくう ねよるい たいあま後教やあふん石
の并くのく字ありてもつりまハれく字ありそとくけさのむきむ
ある国小多田の時主とさうありわの家の一うちの山よ一乃石あり
うのるせままいありてんとさやます仍時主とさんの伊一
さうあつら畢夫ぬけしをさだ畢は花あて一こやせりささつとさ
とさく花む一ありの教さゆら朝れうの冬枯一とささけりやまてふ

てし 雪志すものりかおぢめあてしこい
 やあぢおさく ○わりをくくさるるみてーこ戸ひもせんゆめを
 さうたのやれちよらけいやれちとん深才くみさ
 けいあふれぬるえあてしあめいれ 君うたひ
 まくとこるん

○百合 十六

さぢり ちゆり花とも又
さゆりのむとも さーもの花 くさ海のー あうく
さゆり
 光草 ひめゆりのまふやあまをかくられまるといつくこりて
ごあまのひひり草ごうかうさのそれましまままま
 けいあふれぬるえあてしあめいれ 君うたひ
 まくとこるん

○荷 十七

山若小蓮生於泥中不与泥同潤とけり
おこり小たまぬと伊つるよおまじり ちちさ ちちのをみけりあゆへと
ふ一説くとま

ー葉ー乃つや びーのうえ葉 此たちを
 伊けたし まのりくあり乃くらすんまの
よこりめのまもやくらん ーひーく ○わりをくくさるるみてーこ戸ひもせんゆめを
さうたのやれちよらけいやれちとん深才くみさ
 りりのー回又れー ○わりをくくさるるみてーこ戸ひもせんゆめを
さうたのやれちよらけいやれちとん深才くみさ

そ乃おらりよ志下ぬ しゆめくさうめさう
世因のやつちんし 秋のま 連の
あま
 六月く け下な茶 いぢすの
美名や 池見草 ○くけうわすきやくもらん
いけんき波まじりてま

○阿知佐井

サ 夫木ゆまを世 陽草くうりや

あらしの乃をい やしきく

あらしの乃をい ちくとよめり

乃花乃らひらふてる月

技

ふひらきくむねを

つとみ

○あらしの乃をいふすくかぐらをい
よひらのうすのそよりとそみる

○萩

サ一 野かたしよむ水きよも
あらししとく

志くむら 一原一のやあけり 遊一

一乃と風一乃も風

うらうくとそまへるひくと

色よりめり又見草

美名く花む

のせまき草

家忠草

山ちたり勢

○夕暮の山

下草れ山

花玉の 萩花

草花や夏後のせきくる

とそまへる草

とそまへる草

建のうみ地まうとつれ草油もあそふてり二条院のめききく
これ草とよむすのそやとつ小物もあそふとこれ草と泳せー
徳は

吾侪はく花

花乃花

万の他れ

とそまへる乃をい乃をい

さしと讀ア

萩花ふるん

そらやのなるーとの花

よ

○萩 サ二

萩の あら

萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ

萩の あら

萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ

萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ
萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ
萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ

萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ
萩花ふるんつ の草はう建ててまうりめいして花もさく
みあうしふも色めく足むもさくもありう建てておそ

とちと又かきありのこえきとをとりあつしちまやまきしりつしよ
おこくをとりあつしちまやまきしりつしよ おこく

りもと りもと ぐきー乃ー一むーすもよー乃きー

のーい のーい ちめゆめぬーうたぐ秋ー一此気茶

くちのちけ下こあつくまあふ くちのち 一げりりまき

はまうりゆりひ はまうり 万気やとーのけ下なるん

ゆとちの乃け下てまめらるるーのちよとと ゆとち さ

とちの乃いあひねの秋ー一ゆとーしし乃むね

ふおちれーちらあつし ふおち ちりすあて方おあ

ゆとりぬと ゆとり 志のけ下 志のけ下 志れひ

とちのちけ下 とちのち ちりすあて方おあ

とちのちけ下 とちのち ちりすあて方おあ

とちのちけ下 とちのち ちりすあて方おあ

めア めア ぶん茶 ぶん茶 月ん茶 月ん茶 聖守草 聖守草 遊ん茶 遊ん茶

○うまゆーまあさのやうう庭尺草 秋連草 秋連草 ○秋ち草もや花あつりつ

○ちやえのく君もあつらうち草とー此秋も花を ね枝草 ね枝草 ○花あけつれられ

いんありのア いんありのア 志んてあくー一此深草 志んてあく

てつろあや てつろあや ちらむ花玉 ちらむ花玉 ちらむ花玉 ちらむ花玉

水け茶 水け茶 ○これちんちんあやあつらうち草とー

○これちんちんあやあつらうち草とー ちらむ花玉 ちらむ花玉

とちのちけ下 とちのち ちりすあて方おあ

とちのちけ下 とちのち ちりすあて方おあ

まづのまのまを枝をまづきし出たり枝とふく○枝こ
まじりりありしとてはれりうきと因ては電の敷ぬら
みらさきいさるる

○さいりまよ夜ちるめんあめぬ連とらうあひり
たーりうくうめてち照照うつしあ連を神樂の

さいりまよ夜ちるめんあめぬ連とらうあひり
つしきや夜ちるめんあめぬ連とらうあひり

うきとさひ○ささりのあまう足ぬまう林
ささり下をやうくうりまううん

め今ささりまよひさうゆうまううくくよ照照ふ白くをさやをまのあれ
うきとさひ○ささりのあまう足ぬまう林

よ向風とりまうくさ風とありとま
うんーりしは五約まを白を花を

○女郎花

サニ 娘部志娘神めふりまうくくうむ野山ふ海子
生と押るり海まうくくうむ野山ふ海子

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ
まじりまよひさいぬんあいの葉つくーよんしり天智まま葉花美あふ

う糸をり流ぬとふやとこおそてしたひゆふ川のつこふ山あきりさねのき
ぬありりの女のつねはまきとほまぬくあや一足れを海の中うの死て
あり女をらとりあきとく孝養してうの赤ぬをとりてゆへまうここの赤ぬを
みられとも宮はうつよふりて多しひきくおゆりけたまうの赤ぬを見む
と思ひてとりおやりとりけれんこの赤ぬつらおれちちうてをまぬアと
なれるつらひりへまをひらふひけれんお風田まをみらよまをまアしはれ
まぬれよりお風田のゆへよりとすまをひきくおゆりけたまうの赤ぬを
とらへるひくたとこまのげつ又おまふをり此をとりつやとらと又れと
こ山の中あつても山後や又く
おれとふるうのまきとらひと

みん 赤子をうけく
○長月おそ赤の赤おれとるを
さうまをうをまぬアしうお

うしろの枝一おひまふをせ

○落 廿四 秋の事りゆりせ

とまぬれを山とまぬれ
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

海より出るくゆり
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

志れ一 冬野の目
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

くろとあうふまぬくもゆりま
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

けいんくまぐられまききゆり
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

くろやうはらまきとまゆり
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

まきうたすこまのすこま三のやう
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

此一れまきとまゆり
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

まの志へのうらまをまきき
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

まのりつらりまゆり
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの
あまのいづのいづの

修文草

うろふ

歩ひくさ

江のて

百敷草

びきりの

鴨頭茶

又鷄冠

西文をさみ

草

あつらひ

え草

カ

うろふ

あつらひ

く

あつらひ

あつらひ

○蘭

サ六 匂香る曲

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

○刈萱

サ七

あつらひ

只や

あつらひ

あつらひ

只や

あつらひ

若や

あつらひ

是但未定

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

○桔梗

サ八 物の名よあり和名小壺加度くきくしり

あつらひ

あつらひ

あつらひ

栝棟の花やばらりしよ **一室草** 美名や七月のむくのこのこしとせうしよ
とくくしてありく たもや一室草とくうとやうのあつものさ

○龍膽 廿九 物の名よふあり和名多那の伊久佐

さやえ草 花のひくさ つくりまご戸へういほもくこくもく廿九

下草 花とく つくりまご戸へういほもくこくもく廿九

時平あ合よふありそもつらんたうおまくとくし○秋の野のなつかおま
とさく花のまやこひんあふうとるここの花とまを光あくとつと
とまらんたう **苦膽** まらんたうの一名

の紫莞 廿 和名よは部之久佐

とよのまこ草 あまつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
とさくあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます

とよのまこ草とつひててまへとまをまへまをまへまをまへまをまへ
れんあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます

よまあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
一山不須骨汗穢之國とくし又函とま字もまこことあり無名抄とよ
のまこ草とつひててまへとまをまへまをまへまをまへまをまへ
ひつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
よまあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
うひてまへとまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへ
年つとつりてあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
ありてあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
うひてまへとまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへ
後まつねまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへ
日とくしとあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
あつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
つよくとまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへまをまへ
ふくとあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
あつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
れやあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます
つくひつかまみくみしとあつりしよあつりれおのまこ草らんあのかのまの美名にあつます

枝や袖は草りし〜秋の夕暮のころを思
おん草 あまのつばき **おん草** 代りし松の本入りの

おん草 おん草の草りし **星つん草** 秋菊の庭備ふさしてふたややりの草ま

星つん草 おん草の草りし **秋無草** おん草の草りし

秋無草 おん草の草りし **ひ草** おん草の草りし

ひ草 おん草の草りし **金草** おん草の草りし

金草 おん草の草りし **山れ草** おん草の草りし

山れ草 おん草の草りし **長月花** おん草の草りし

長月花 おん草の草りし **秋ちくれ花** おん草の草りし

秋ちくれ花 おん草の草りし **草花** おん草の草りし

草花 おん草の草りし **山れ花** おん草の草りし

山れ花 おん草の草りし **長月花** おん草の草りし

長月花 おん草の草りし **秋ちくれ花** おん草の草りし

秋ちくれ花 おん草の草りし **草花** おん草の草りし

草花 おん草の草りし **山れ花** おん草の草りし

山れ花 おん草の草りし **長月花** おん草の草りし

長月花 おん草の草りし **秋ちくれ花** おん草の草りし

秋ちくれ花 おん草の草りし **草花** おん草の草りし

草花 おん草の草りし **山れ花** おん草の草りし

山れ花 おん草の草りし **長月花** おん草の草りし

長月花 おん草の草りし **秋ちくれ花** おん草の草りし

秋ちくれ花 おん草の草りし **草花** おん草の草りし

草花 おん草の草りし **山れ花** おん草の草りし

ほたつつーまふー 一の建業りーわめー

のお業 まのりつたのりみち ーまふ草 又つーまふ草の 秋 又つーまふ草の

とあめーらーれま松おめーとよめー 又○秋の

くれぬ松もたつつーまふりまふあまー 松無草 又○秋の

のうーまのまあまーつーのまや ちとふーめりはむうつらハつたー

あのみうー ぶうつーまふ木 まふー一切の物とやめーまふ木

○仙翁集 又廿四

○あまの野の松梅草の花とわらまのむまうせつらうま
万仙翁集の巻名

○薄 廿五 付まふ草

はりまのほろ 海さのまが 海さたのり 又まふ

らとゆあまや ちる ーまふー ちる ちる ちる

くわいーまふー ちる ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

あまー ちる ちる

るるう祿れく玉ー

○茅 廿六

は茅 ーのそれ ちのそろ あらちりー ちを茅

あさちふ あさちりろはく ーのそら ーのうを

おちりし月ーろーをーなまーのあーをり

まどあーーあーうろれーさひねや ぼろま

野山乃あさち （むろろ草く見） ーのあさち

おのひ草 あさちー種あり ーのあさち

あさちのそろ あさちのそろ ーのあさち

あさちのそろ あさちのそろ ーのあさち

草 ○あさちのそろ ーのあさち

○蓬 廿七

ふのそろ ふのそろ ーのあさち

えさ草ーれせま 是のうら ーのあさち

のーあさち あさちの中 ーのあさち

さのそ草 さのそ草 ーのあさち

さのそ草 さのそ草 ーのあさち

さのそ草 さのそ草 ーのあさち

さのそ草 さのそ草 ーのあさち

あぢい草

やまに物つくしとあぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

そまらぬ

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草

あぢい草

あぢい草

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると
あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

あぢい草は地へこもり花わくくると

あぢい草

るのーぬーくくる

○こ海もさつの人へのうかひはきくく
へたりき目くすす連をばくこめ

生むらうらせ

ーのうをみり

○葦

四十八

ーせふ伊勢を後ねえと云

あー祢もふ

あー祢りあうえとありうえとぬ
戸なとの極ふよとえらう水とと

あーの

祭ーの霜のれ

又冬つ連

一箇かつれーけのくむー

ーのふる祢ーあうれ兼ーあわりの海ーあがむけ

ーあがむけーあうれ兼ーあわりの海ーあがむけ

あー

あー乃のの中よ
あー乃のの中よ

中よあーのつれくくくやうふ物か来
やまどし益芳と中よ是ハ大日如来の即文也

あー乃のの中よ
あー乃のの中よ

ありはくふくうとまよのこゆまあー

あー乃のの中よ
あー乃のの中よ

りの連りーのふか

六月

あー乃のの中よ

よそあつむける玉江れー

なす枝に江よあつむ
但寄江女詠と云

夏うら

の玉江乃ー

まりの乃あーを連りつとく美被むけーの夏玉
まの玉江のあーを少とまき押りのゆさうらつを

うるたろハ胡国へうつらとのうをまへゆくくみるふは国の水国を
と平りて夜ハもひれちてあーの中もあうと也あうれお玉江も越前ふ

あれさうのさとうと也あうらとら戸江の玉江も伊へをりくの江を
と玉江と云てあひらふとくともあつハ一雨の名なれとあまつのどの

けといへれハのくくむれの数多列りもあつと云連と交るま
とあつらうられろとつ後ありあう用む連ねふらりのうらうらるれと

とあまむ連のやありのら多の羽なぬけてくぬむあふんたれも同た
たれけ又玉江と云と玉枝と云俄とありこれれもねと云又うま

とらもあつの志うとらと越あ玉江とハ湖と城くひうらと云てあう
るあーれひらうれまをうまわうてあつ人あをくくふら

てむ連井れさうんとらとつらあと也是を不て用くさうらうらあ
やれ冬とららうむうへてあつとらハ云は説くをさうらうらと云

玉江あくののむむと也花玉

氷室草

○かあまああ
りあうらひむらあ

さつらとてりも ○あつて又江の戸ことりりりてむふてよるる
五月の比の風むうふを船のふこもつらういふつ
きとをぬれく世のさうし

○萍 五十一

五月乃うま草とりるる 五月の指元位曆より三
月生とほすめふと たのみお

しとりるる うま草
とむお 秘とたし

とりるる あつて
草こつりのあとの飯のむのる荒む位同志 秘とたし

るお うま草
り 秘とたし

秘とたし あつて
り 秘とたし

草 秘とたし あつて
り 秘とたし

○薬 五十三

いげりの花 いげりの花
これをもとらや 秘とたし

玉 むちつらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

い むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

の むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

色 むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

あり むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

ひ むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

い むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

な むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

は むちとまらとくともあり是おはき美飯あり或はとくくうとむ
説ありうまも玉を刈食とくけおふらとてりりもむとらり又ちち
くくいへもとらりくなくひゆさうちりもあまのつらもまら お

子せろ菱

○蓴

五十四 自三月廿七日まある草一説こもるめくま

うえぬるし 蓴根茎や益地 海の入江おろめつと

みさむちーアれうさー後海よ あり河の志げえは

たおたおのれく 蓴ぬるんれなる蓴

○蓑

五十五

ひししけく ひーれつらさし 一れうさ 〇こまひ江れひー

てうもつかく すせ又たりまとも 一とく船 一とりのせきん一れ

下祿 一めうさけく よ国 一かすまひーく

のきくの地ちろひー 一とく船とつむとやりのみさけめれん〇あうた

○蓼

五十六

うやだて 一かー一れ蓼 一おきさく 一や海ーあー

いぬー水ーのけつさのうふなと 一おが 水

一ありうえめなと 一海ーあつとつれもや志

とれなるだて 一海ーれおがーえけく 一かー海

海ううーくのこ 一駒をまさめす

○大根

五十七

〇大根 〇大根 〇大根 〇大根 〇大根

〇大根 〇大根 〇大根 〇大根 〇大根

○芋

五十八

〇芋 〇芋 〇芋 〇芋 〇芋

麻 六十五 阿佐のなま

○麻

あさて あさて あさて

あさこの名くみあさこの中よき

あさてやう連しよさ文字とくくくくあさてくくく

一の糸

六月按のやあさのゆ

あさてともあさのゆ

あさく又あさひくうたりとと

あさてやう連しよさ文字とくくくくあさてくくく

あさく又あさひくうたりとと

あさく又あさひくうたりとと

あさく又あさひくうたりとと

○林麻

六十六 和名度創の阿志久佐

うたて草

○木賊

六十七

とくさうれんら山 さうら又ぶのまら

いぬのり

○白木

六十八

うげらう花

むつりふあうきれてひうげの物やまひらげ

井後又あさり

ゆえ草

ひれ本とていふ成あれとせけやまはく

三葉回葉といふしきりよき草と引出く但捨せり

○羊蹄

六十九 和名よまはひ

いちの花

えりーまてりあさ八世は花や又あつ物よまのり

あさてやう連しよさ文字とくくくくあさてくくく

麻

六

○駒整 七十一

○あをぢがうしのくのかつさるちりん人や川とくちやー

○報京 七十一

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○射干 七十二

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○む子茶 七十三

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○白慈草 七十四 天門冬丸

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○白頭花 七十五

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○水荭 七十六

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

○あつあつ 又海山のこと
あつあつ 又海山のこと

田

廿八

此井とれこまき けり海のみう池一 池を田の
あせみーはむ 田一のまれとまぬみす

○蒨草 七十七 三稜草せうく宝丸利を書

ふれぬみおみおえらり けり海のみう池一

はく海はふらあら けり海のみう池一

こころの福も見給とうりまへん けり海のみう池一
のこころの福も見給とうりまへん けり海のみう池一
けり海のみう池一 けり海のみう池一

○油沙 七十八

○えれん又あきしれあてふ海あてそこのむの福もまきりぬ ○ねのあ
らこみくうらぬうえ給よりむあきしのをさてれひたる ○池あまよてあ
草のあきしのをさてれひたる ○池あまよてあ
草のあきしのをさてれひたる ○池あまよてあ

○鏡草 七十九 けり海のみう池一

けり海のみう池一 けり海のみう池一

○おあ草 八十

○林きやくさつう池のれーまきしけり海のみう池一

○莞草 八十一

○海らとりたぐやあるれあひ草 伊なりのぬまのあひ

くさ

○本汗草 八十二

八十二 万ちち和草けり海のみう池一
ありそこ給山けり海のみう池一
め字やとちけり海のみう池一

の字あり 昔のーゆりしわめどー志乃のー後

ーこーしーしらあさ藤原木もあしと茶ふを

わらぬ行のふけくれをらゆことひきひてつりり
ととめし世

ひらうーあゆくのさくろ源くれ行のまきし家

やうせよこまきしるお海ひといるる源氏也雑草葉
音地の名り

ついで白とりのり井 子父茶たげの
美名也小枝茶 河玉草日○社
もきいお

れ松りーのらふりゆむ 夕玉茶あまのたけ茶としくま
ゆあまくこのあま風よまをりわら

ゆえといの行のゆり糸むくさだれー ありー古しー

れさ技あくの葉のさやく ぬを乃はが、葉

うくせそとらうらーたうまうらり 藤むきひ志

はうかまゆのあくろるぬ新まのぬ行のし

ちりろあるうけ是市行のし山 てあく生う

きれーる行新行也ゆりしるゆく藤氏

○草 九十四

うー玉草の夫名也
むりありふけの子ととふめらや○今
ゆれいつり

むたげのこのまきや ちまのあるわめおひか結
見た

うしんまを ぎくねくま勢れ糸たのんあ うえ福よ

たふふたげのこ 雪乃まきつらたげのこ

○和名わく 九十五

通茶あまひのうら鳥双旅宇 飛鷹うほ良又布
保よ天久依 天門冬すまあり
くらさ

漢地本草

黄精

あがらぎ

甘草

くろくち

人参

あまのこ

牛膝

あはれ久根

细辛

義也天
好茶志

旋胡

の世利又
のくさ

防风

は万多うか

白芍

えんぶ志

心

黄連

くろくち

王不留行

くろくち

黄蓉

さじん

茜根

阿呆綿

知母

や万度古

栝楼

くろくち

石龍芮

都加紫

石葦

伊之の波々
又伊は志波

獨脊

あひら

草薢

余度古呂

貫衆

く海わら
ひ又於小

和良比

羊挑

あひら

花胡

うたふ又の

芍薬

於羊ふり

大青

りやしくさ又く
ろくさ

玄参

あひら

苦参

くろくち又戸

牡蘘

やくさ

澤漆

あひら

射干

あひら

烏菴

うまくさ又
あひらくさ

烏芋

あひら

貝母

あひら

鼠尾草

あひら

莞蔚

あひら

酢醬

あひら

蜀漆

あひら

茵茹

あひら

蒜子

あひら

蒟子

あひら

景天

あひら

瓜蒂

あひら

葶藶

あひら

地盧子

あひら

漏蘆

あひら

敗醬

あひら

牙子

あひら

萑苜

あひら

藕实

あひら

雞頭実

あひら

菟絲子

あひら

干薑

あひら

蓋草

あひら

呔明

あひら

六菱

あひら

子歲蒸汁

あひら

秦膠

あひら

藁茸

あひら

女萎

あひら

玉線

あひら

百戸根

あひら

薺荒

あひら

積者草

あひら

藜香子

あひら

芳己

あひら

鹿藿

あひら

地萐

あひら

狼跋子

あひら

弓弩弦

あひら

葛藟

あひら

天名精

あひら

酢醬草

あひら

蘓合

あひら

車前

あひら

羊蹄

あひら

草考

あひら

馬兜鈴

あひら

由跋

あひら

羊蹄

あひら

本草綱目

四十三

半扁

くろがらち

馬韭

まこけ

蔘

いぢりひ

牽牛子

あま

皂角

依伊の伊之

地偷

のつち又とひとの松

忍冬

すゆふつ

仙女草

つよく

虎杖根

しつこうりね

老母草

とと

覆盆子

いちこ

继子草

ひつひら

如意草

いざこ

葶藶

ちりちり

常忍草

まのえ

本草綱目卷第八

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

